

2025年度第2四半期（中間期）決算報告

2025年11月21日 代表取締役 社長執行役員 浦西 信哉

- 1. 2025年度第2四半期（中間期）決算について**
 - 2. 2025年度見通しについて**
 - 3. 2025-2027年度 中期経営方針の進捗**
-

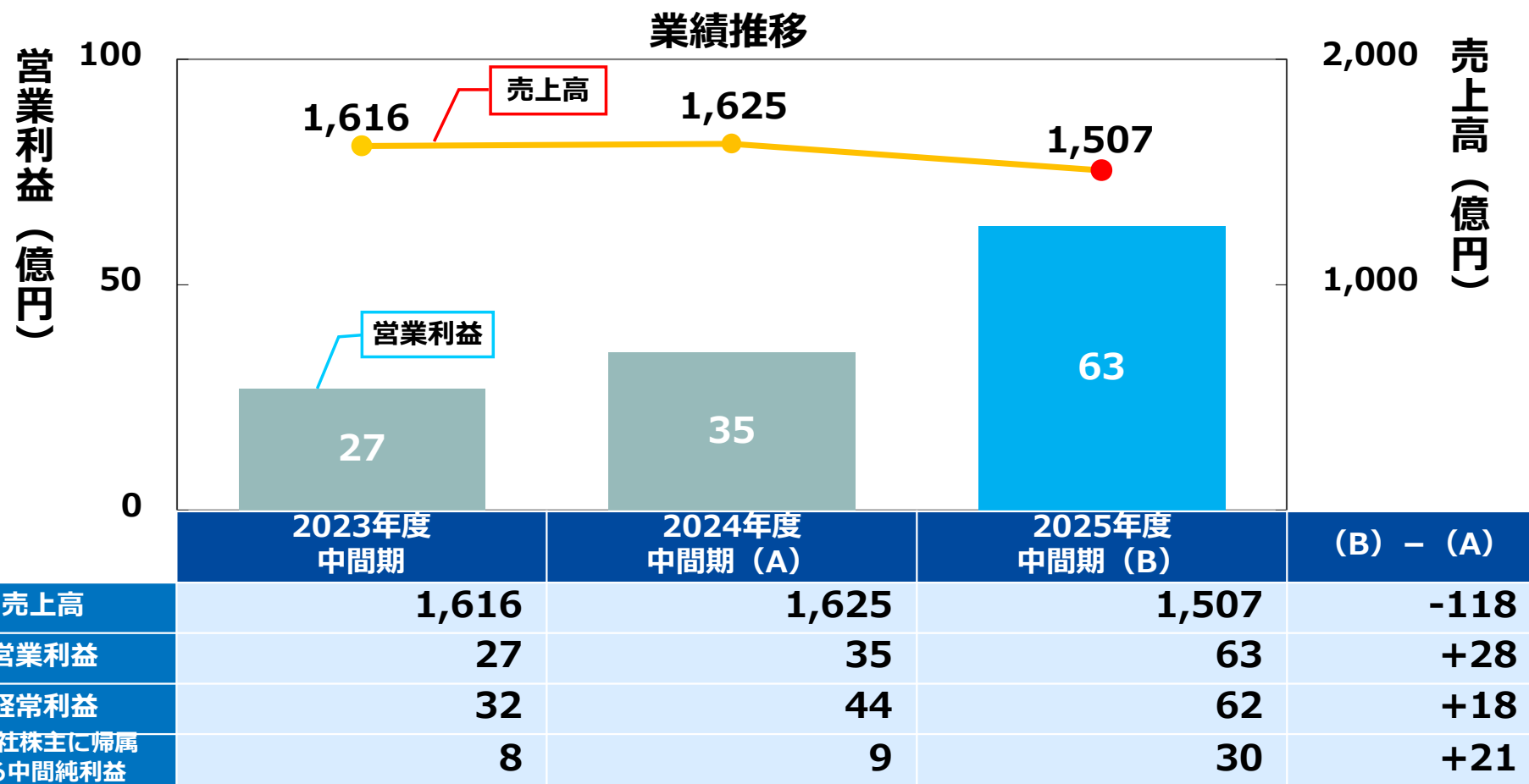
2025年度第2四半期（中間期）決算について

**売上高は、得意先の減産影響および為替換算影響等により、
1,507億円と減収。**

**営業利益は、減価償却費の改善および合理化効果等により、
63億円と増益。**

2025年度第2四半期（中間期）連結決算サマリー

- 売上高は、前年同期比 1 1 8 億円減収（7.3%減）
- 営業利益は、前年同期比 2 8 億円増益（80.0%増）



製品群別連結売上構成

(億円)

	2024年度中間期		2025年度中間期		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	1,423	87.5%	1,339	88.9%	-84	+1.4%
精密プレス製品	173	10.7%	138	9.1%	-35	-1.6%
樹脂プレス製品	21	1.3%	22	1.5%	+1	+0.2%
その他	8	0.5%	8	0.5%	0	0.0%
合計	1,625	100%	1,507	100%	-118	—

得意先別連結売上構成（日産自動車関連）

- 北米日産、メキシコ日産向け等の増加はあったものの、東風汽車、日産自動車（日本）向け等の減少により、
構成比は0.9%減少

(億円)

	2024年度中間期		2025年度中間期		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	1,223	75.3%	1,121	74.4%	-0.9%
メキシコ日産自動車	248	15.3%	275	18.2%	+2.9%
北米日産	216	13.3%	252	16.7%	+3.4%
日産自動車（日本）	244	15.0%	204	13.5%	-1.5%
欧州日産自動車	153	9.4%	126	8.4%	-1.0%
東風汽車	151	9.3%	103	6.8%	-2.5%
ジャトロコ（海外拠点含む）	96	5.9%	71	4.7%	-1.2%
日産車体	61	3.8%	44	2.9%	-0.9%
マレリ（海外拠点含む）	25	1.5%	18	1.2%	-0.3%
ルノー日産インドシア/インド日産	16	1.0%	18	1.2%	+0.2%
タイ日産自動車	13	0.8%	10	0.7%	-0.1%
鄭州日産	0.4	0.02%	0.2	0.01%	-0.01%

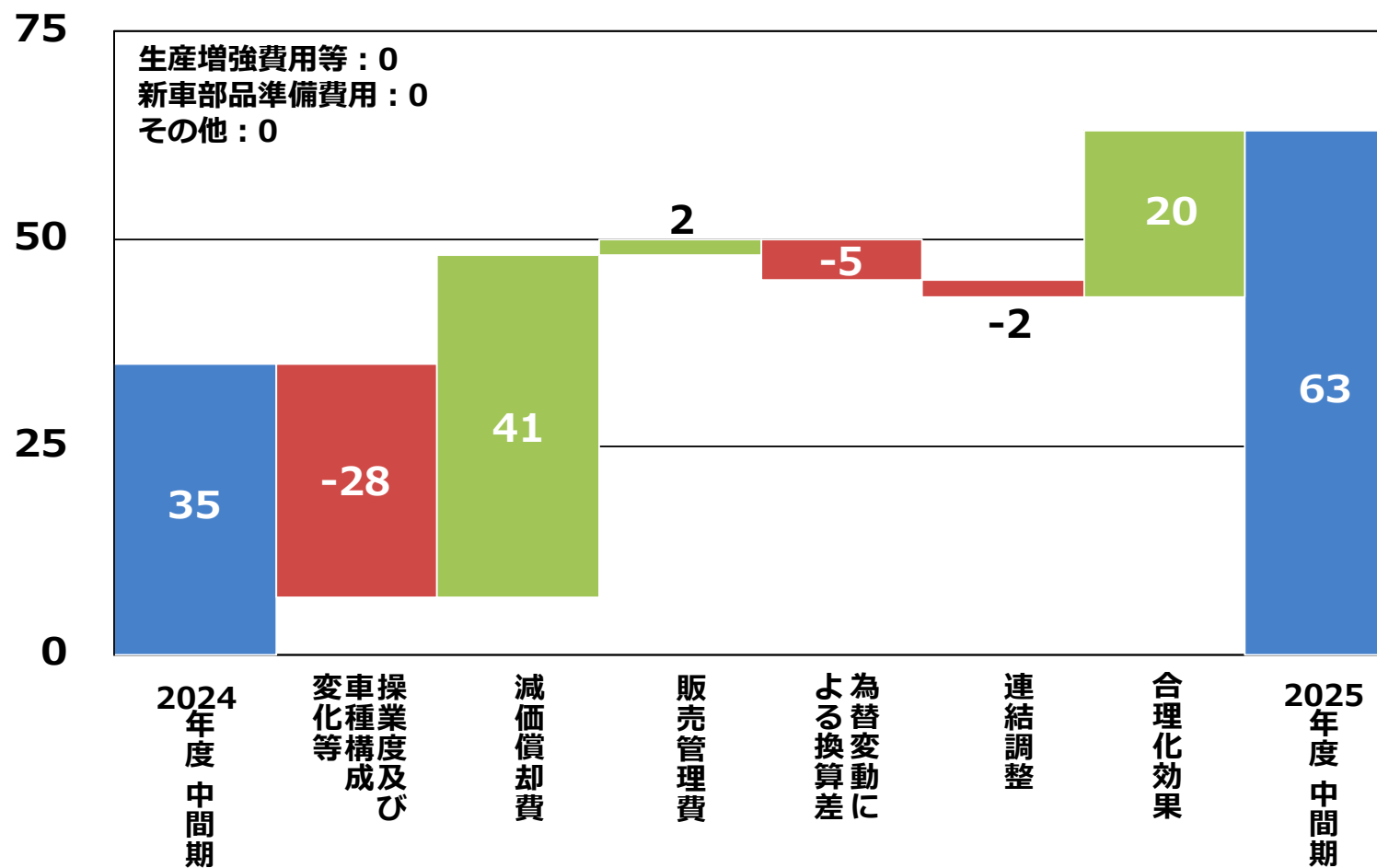
得意先別連結売上構成（日産自動車関連以外）

- ルノー向けの減少はあったものの、米国ホンダ、メキシコホンダおよびNIO向け等の増加により、構成比は0.9%増加

		2024年度中間期		2025年度中間期		構成比 増減	(億円)
		売上高	構成比	売上高	構成比		
日産自動車関連以外の得意先 小計		402	24.7%	386	25.6%	+0.9%	
ホンダ	米国ホンダ	67.2	4.1%	75.2	5.0%	+0.9%	
	メキシコホンダ	21.6	1.3%	28.0	1.9%	+0.6%	
	本田技研工業（日本）	14.7	0.9%	13.9	0.9%	0.0%	
	インドネシアホンダ	5.2	0.3%	4.2	0.3%	0.0%	
三菱自動車工業（海外拠点含む）		71.6	4.4%	57.7	3.8%	-0.6%	
ルノー	ルノー	49.8	3.1%	28.8	1.9%	-1.2%	
	ルノー日産インドア	6.4	0.4%	6.0	0.4%	0.0%	
アイシン（海外拠点含む）		23.1	1.4%	22.4	1.5%	+0.1%	
ステランティス		29.3	1.8%	18.6	1.2%	-0.6%	
マツダ	マツダ	11.8	0.7%	10.2	0.7%	0.0%	
	メキシコマツダ	7.5	0.5%	6.3	0.4%	-0.1%	
NIO		0.2	0.01%	12.1	0.8%	+0.79%	
ジャトコ（日産以外）（海外拠点含む）		13.1	0.8%	9.1	0.6%	-0.2%	
武蔵精密工業（海外拠点含む）		1.7	0.1%	6.0	0.4%	+0.3%	
ダイナックス（海外拠点含む）		7.2	0.4%	5.5	0.4%	0.0%	
SUBARU		6.5	0.4%	4.8	0.3%	-0.1%	
豊田鉄工（海外拠点を含む）		1.9	0.1%	1.8	0.1%	0.0%	
スズキ（海外拠点含む）		1.8	0.1%	1.8	0.1%	0.0%	
UDトラックス		1.3	0.1%	1.4	0.1%	0.0%	
BYD		0.4	0.02%	1.1	0.1%	+0.08%	
日野自動車（海外拠点含む）		1.3	0.1%	1.0	0.1%	0.0%	
いすゞ自動車（海外拠点含む）		1.0	0.1%	1.0	0.1%	0.0%	
NSKワーナー		0.5	0.03%	0.5	0.03%	0.0%	

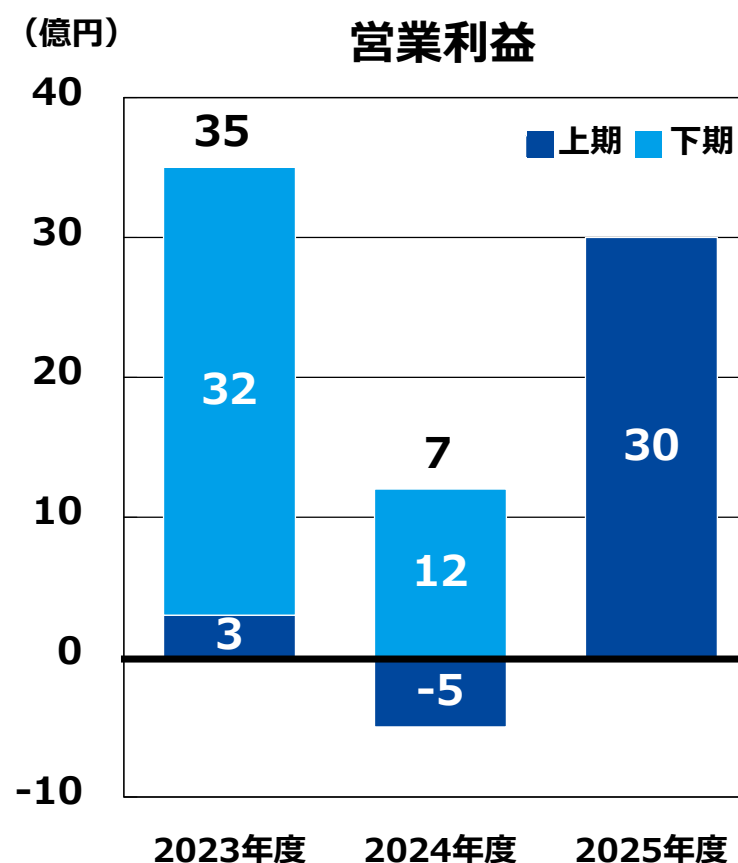
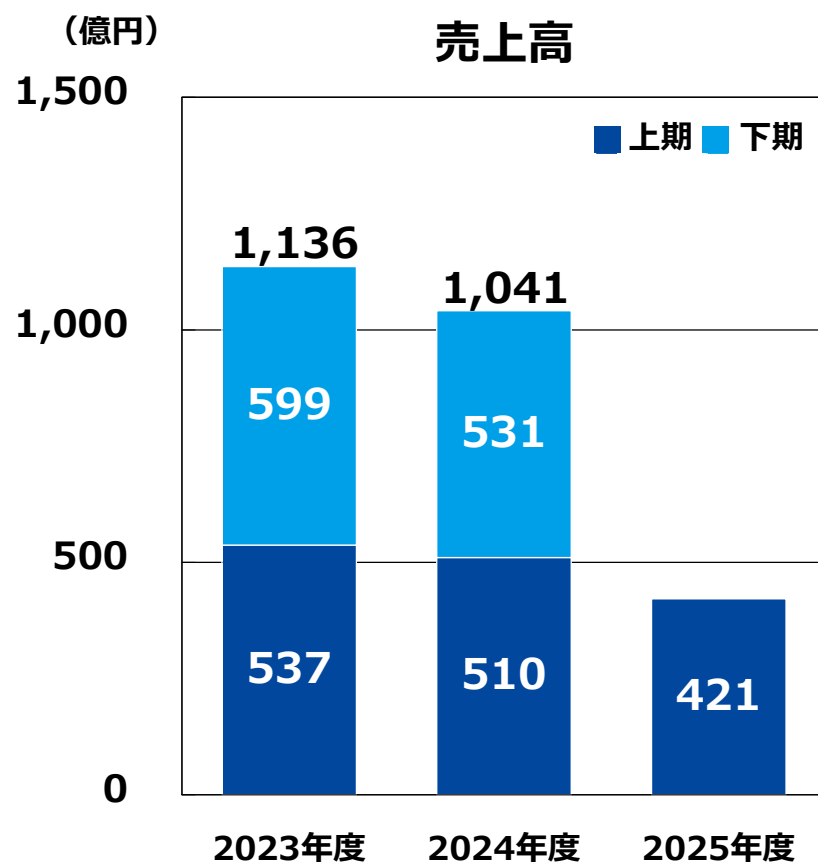
営業利益の増減要因

(億円)



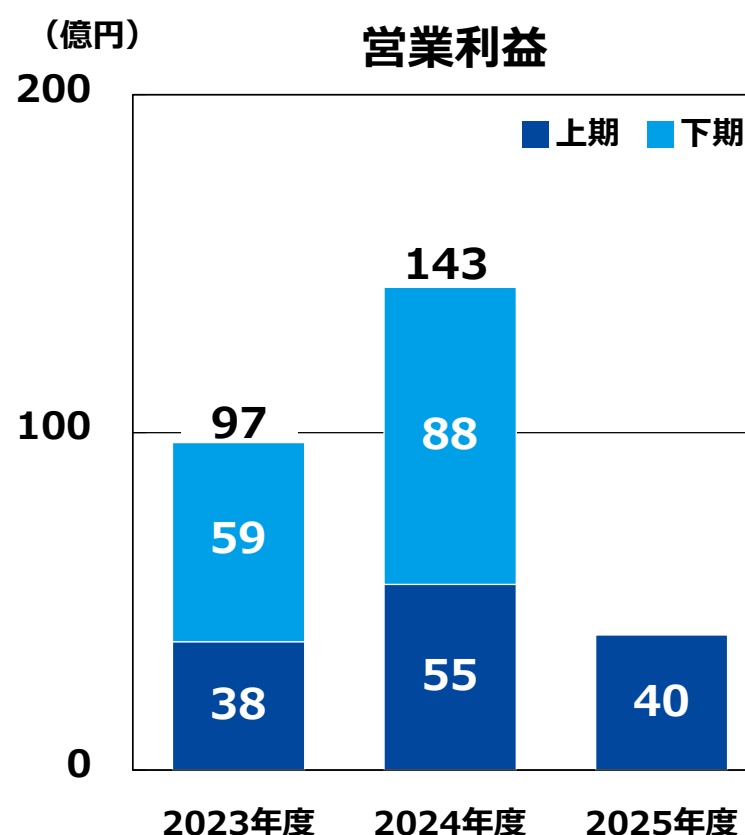
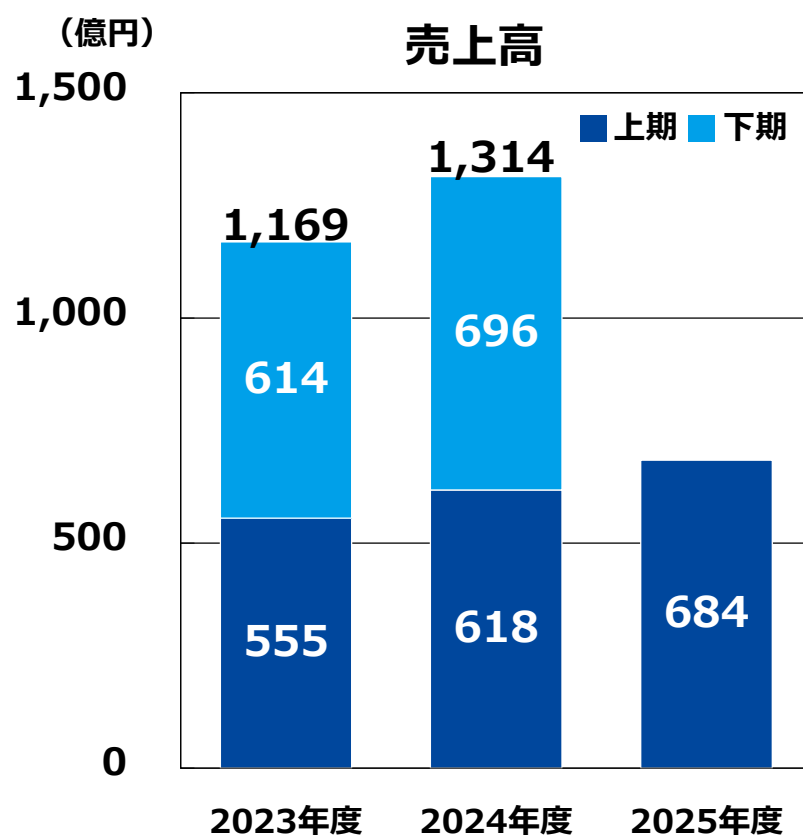
地域別売上高・営業利益（日本）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、17.5%減収
- 営業利益は、売上減少の影響はあったものの、移転価格税制調整金の影響等により、35億円の増益



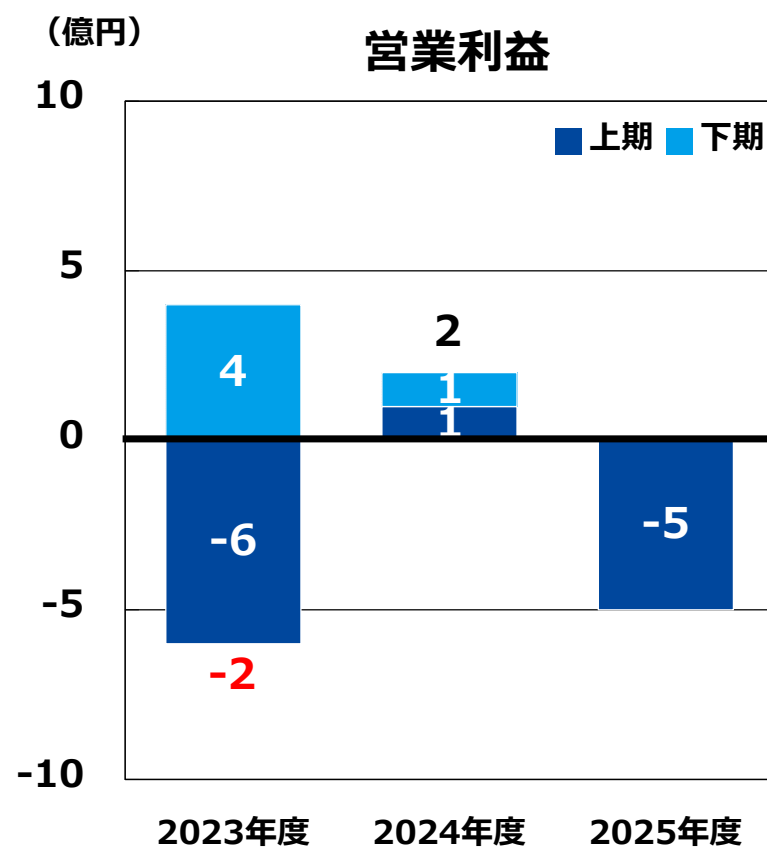
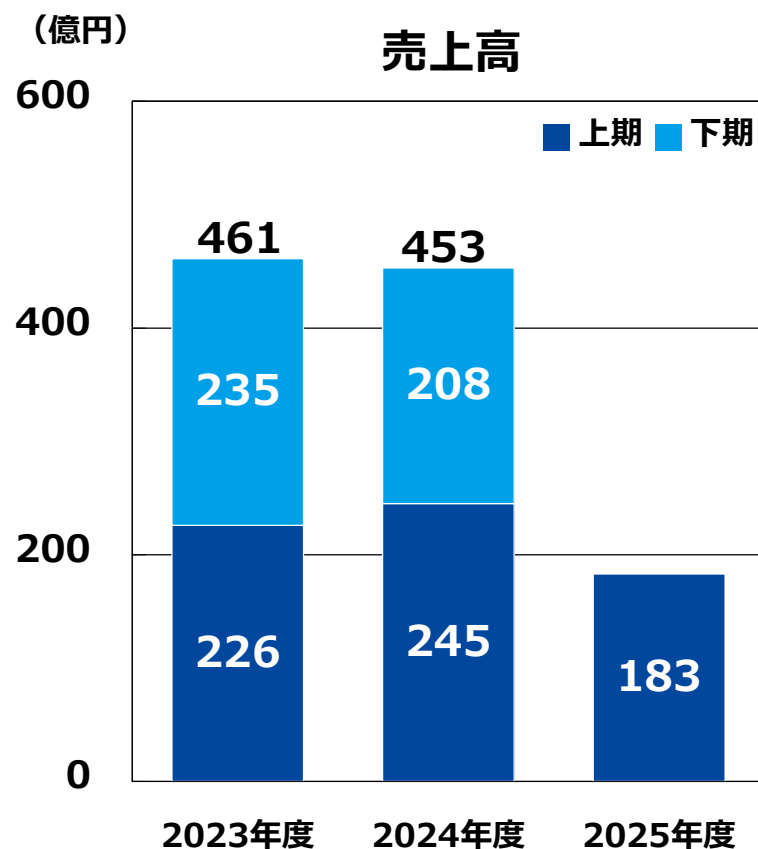
地域別売上高・営業利益（米州）

- 売上高は、為替換算影響等があったものの、10.7%増収
- 営業利益は、売上増加の影響はあったものの、移転価格税制調整金の影響等により、15億円の減益



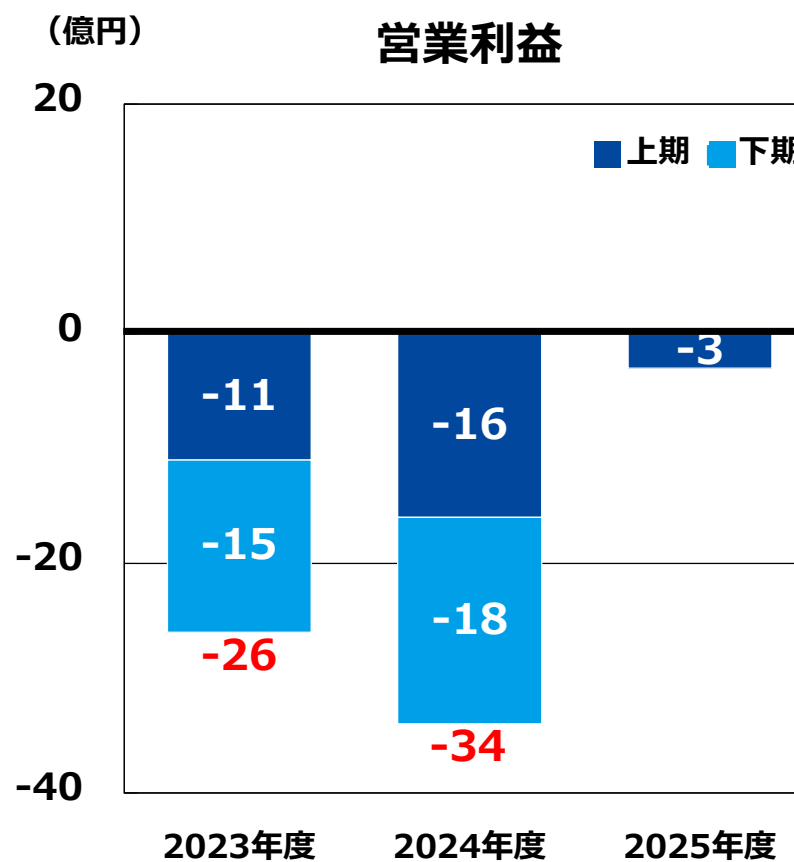
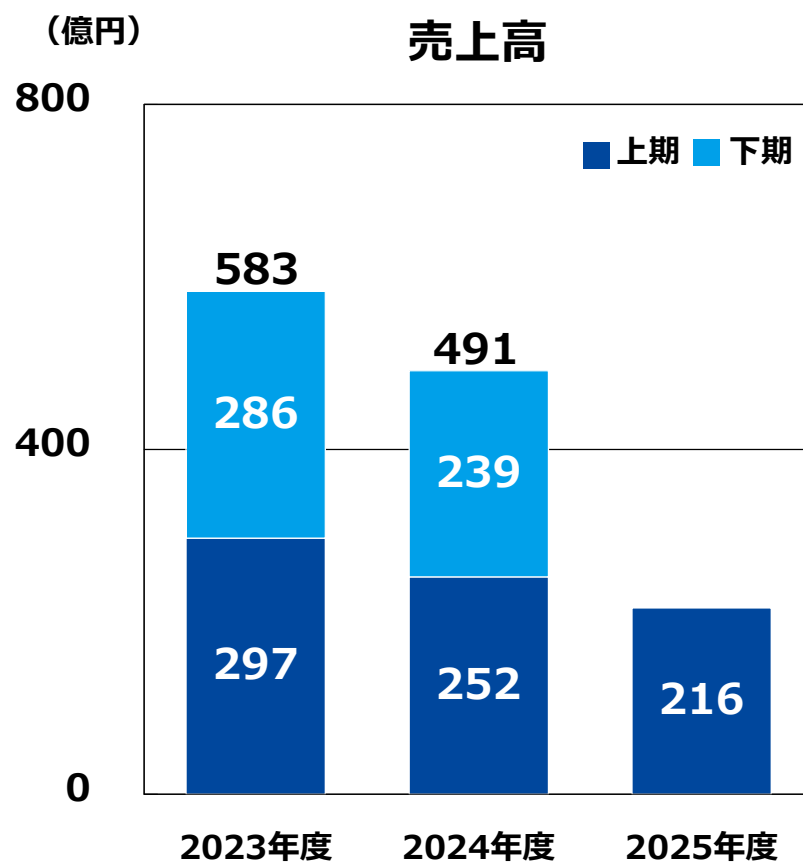
地域別売上高・営業利益（欧州）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、25.3%減収
- 営業利益は、売上減少の影響等により、5億円の損失



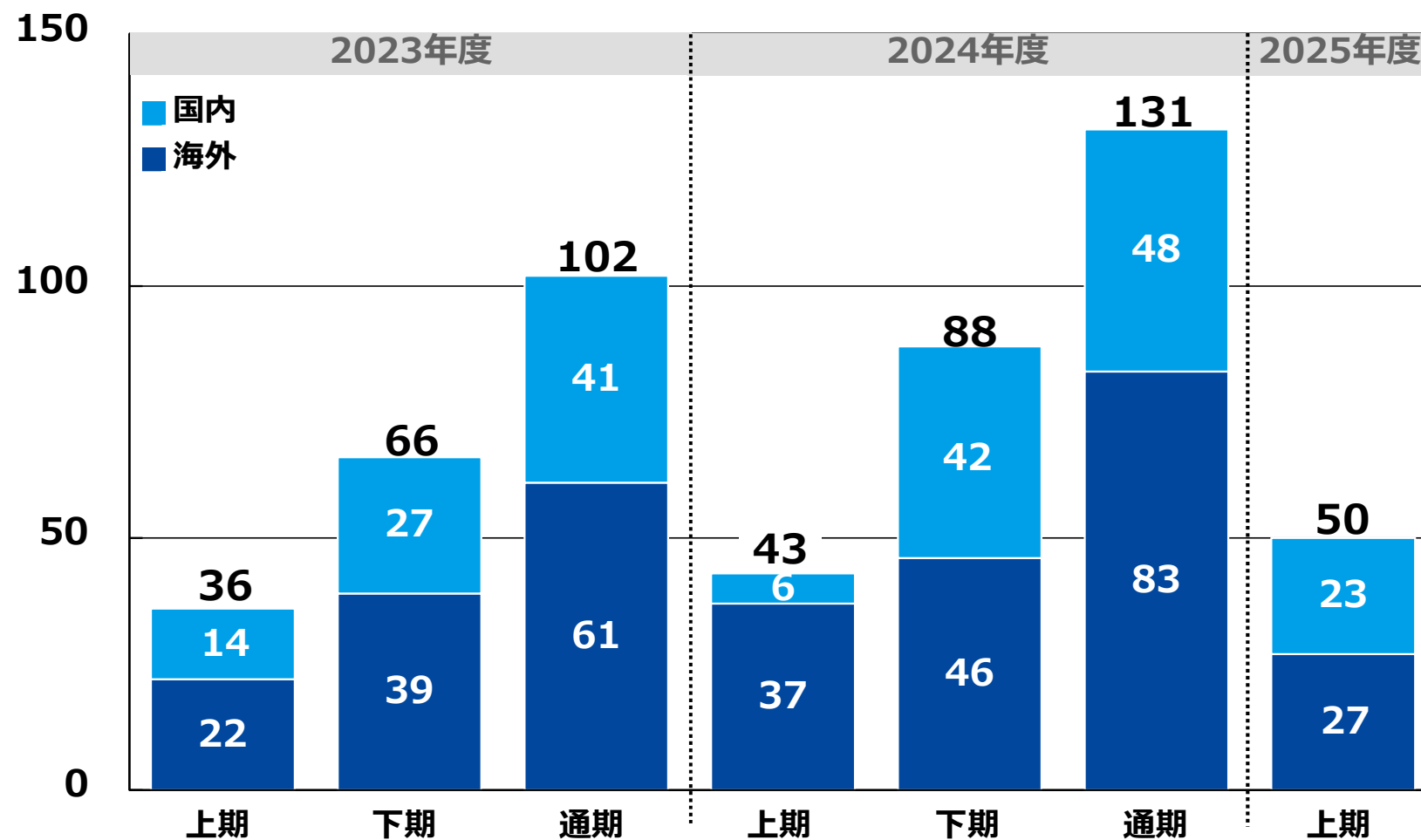
地域別売上高・営業利益（アジア）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、14.3%減収
- 営業利益は、操業度の低下があったものの、減価償却費の改善等により、13億円の改善

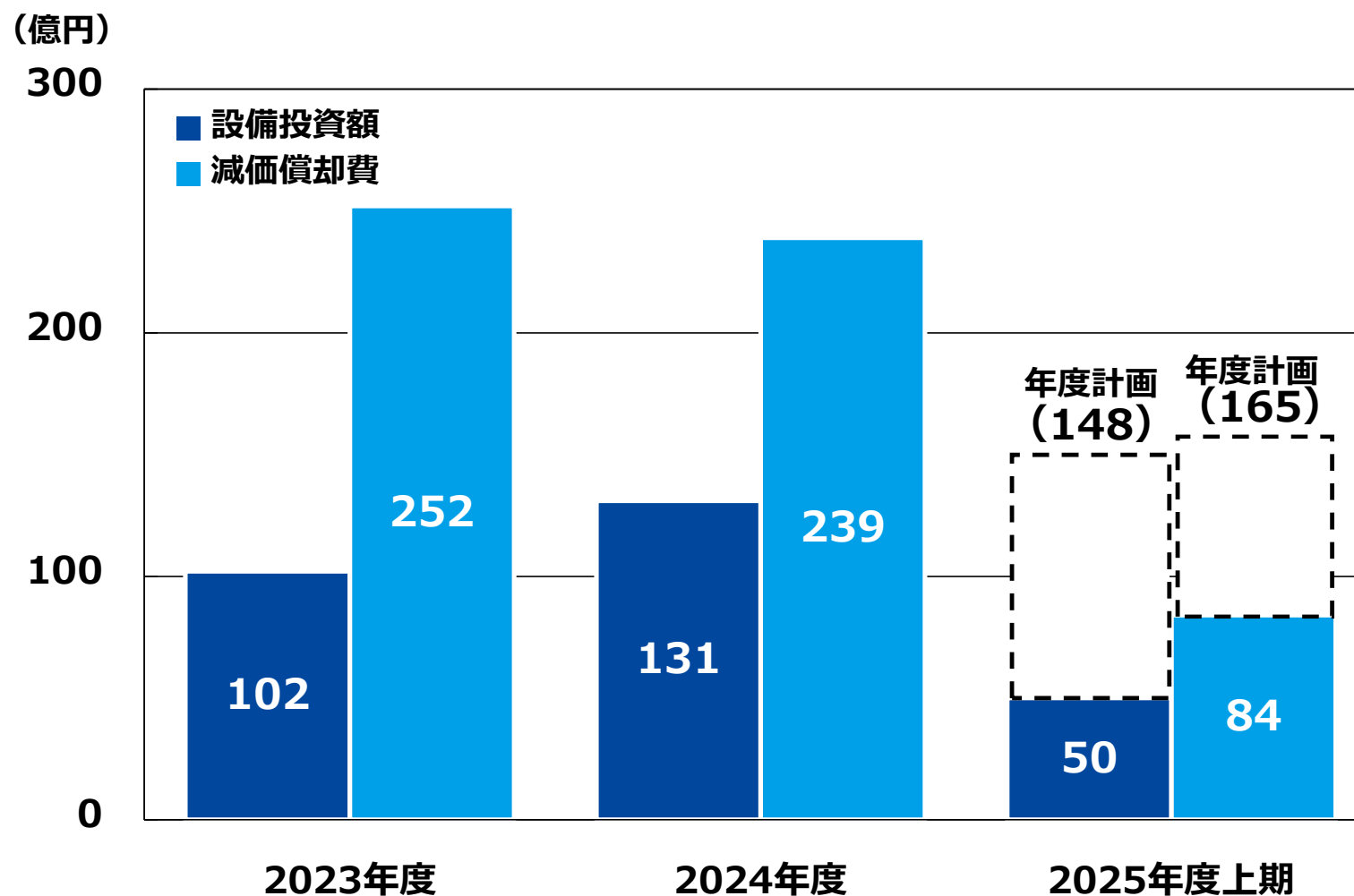


設備投資額推移

(億円)

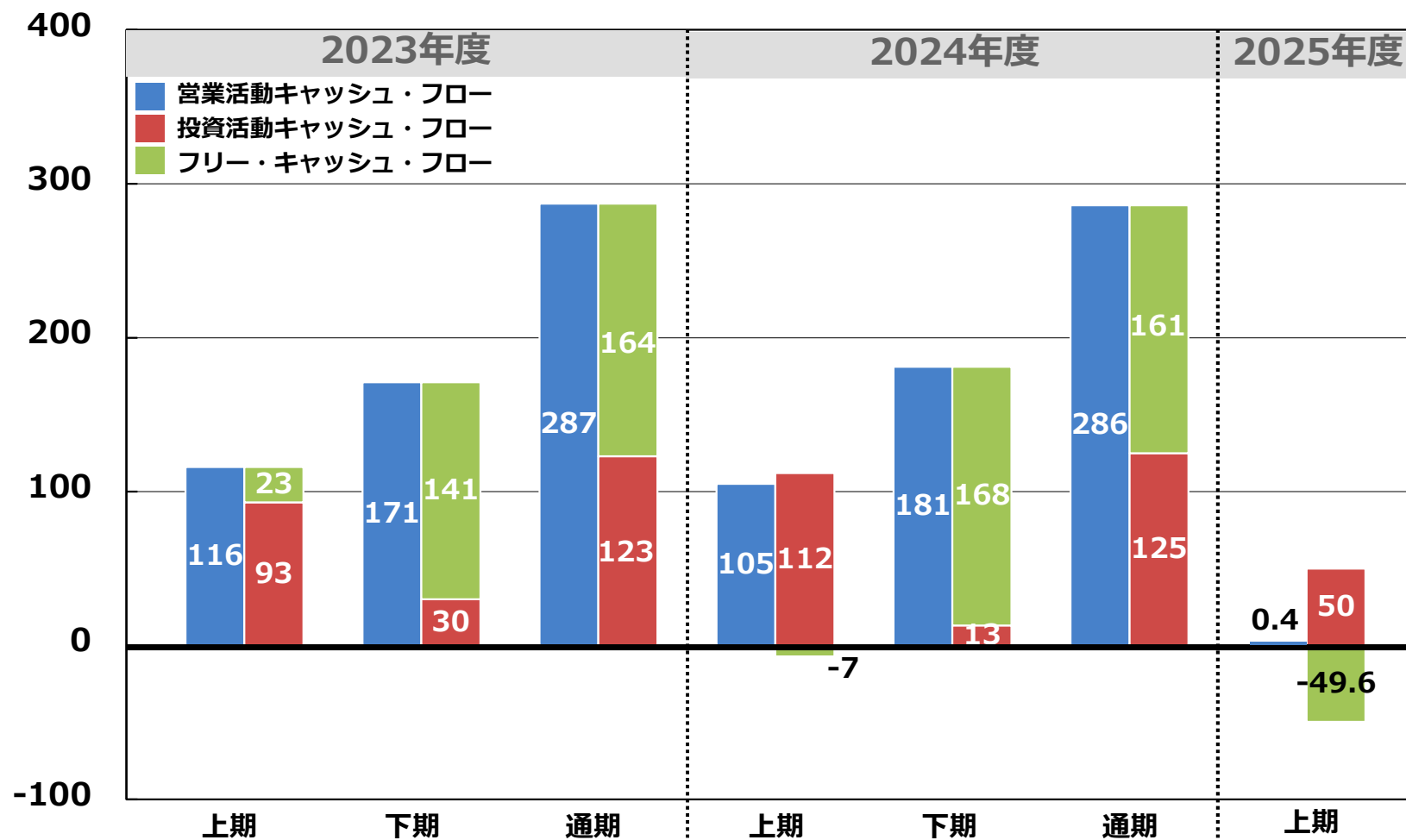


設備投資額・減価償却費推移



キャッシュ・フロー

(億円)

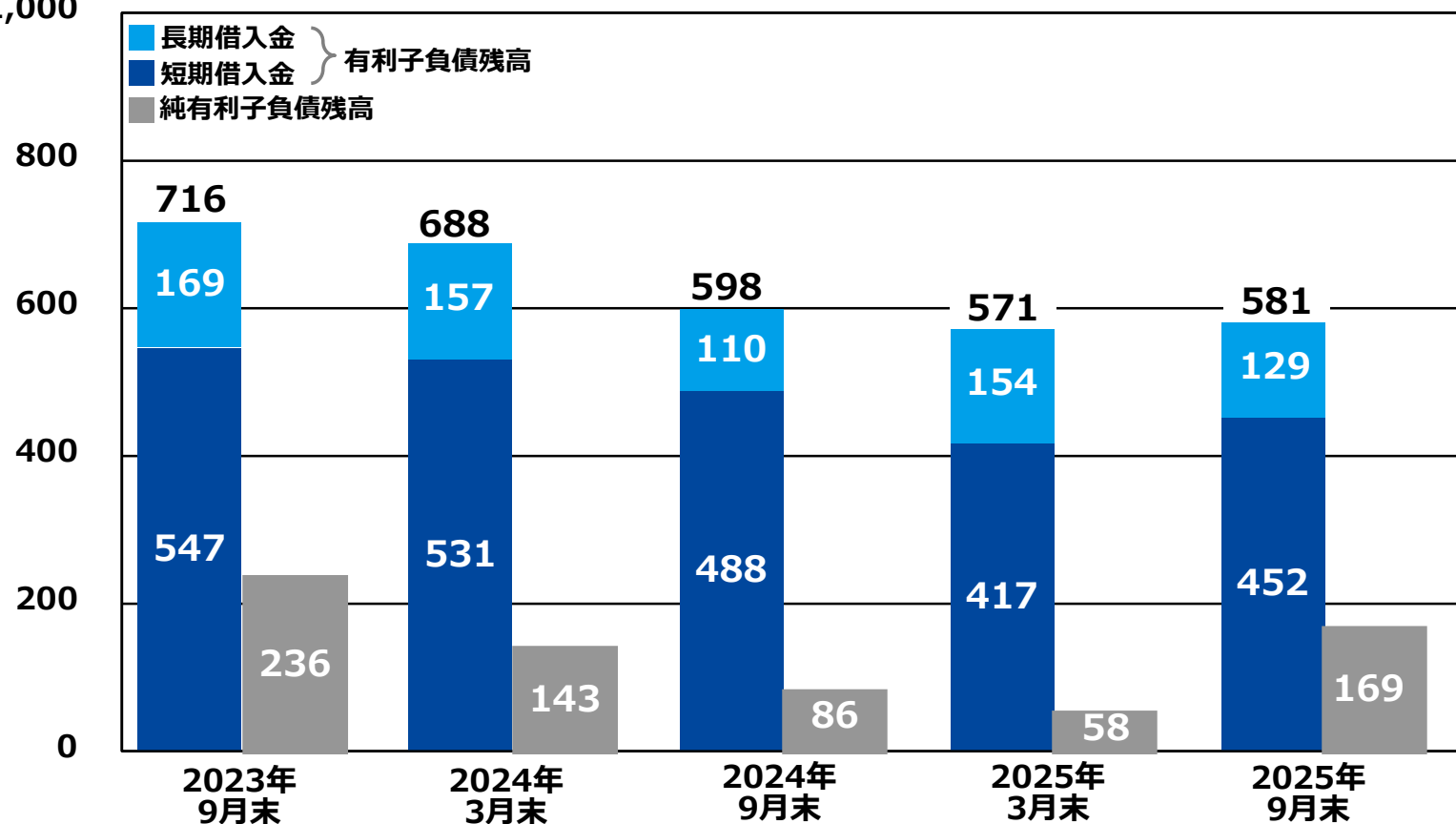


有利子負債・純有利子負債残高の推移

- 有利子負債は、前年度末に対して10億円増加
- 現預金を含めた純有利子負債は、169億円

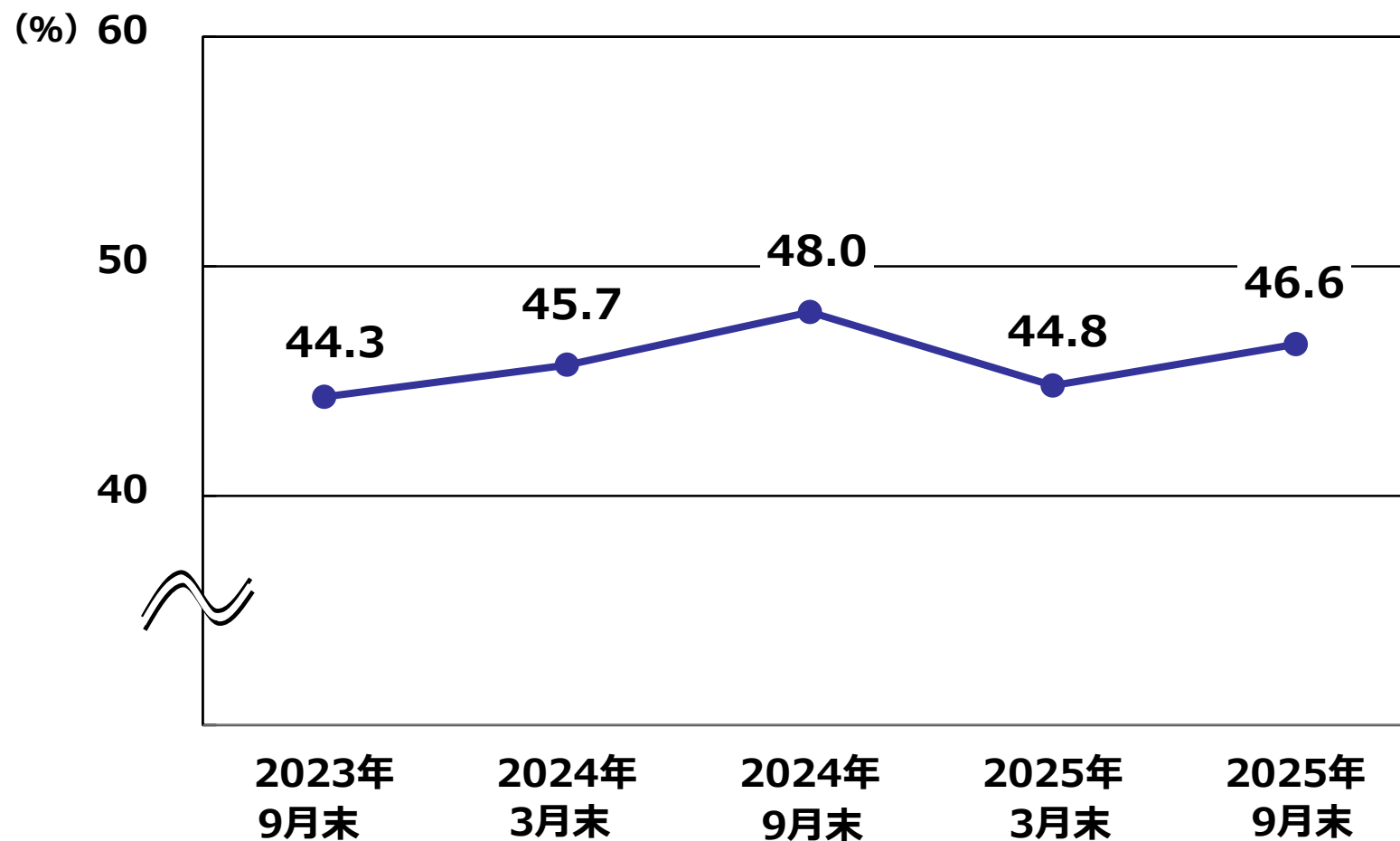
(億円)

1,000



自己資本比率の推移

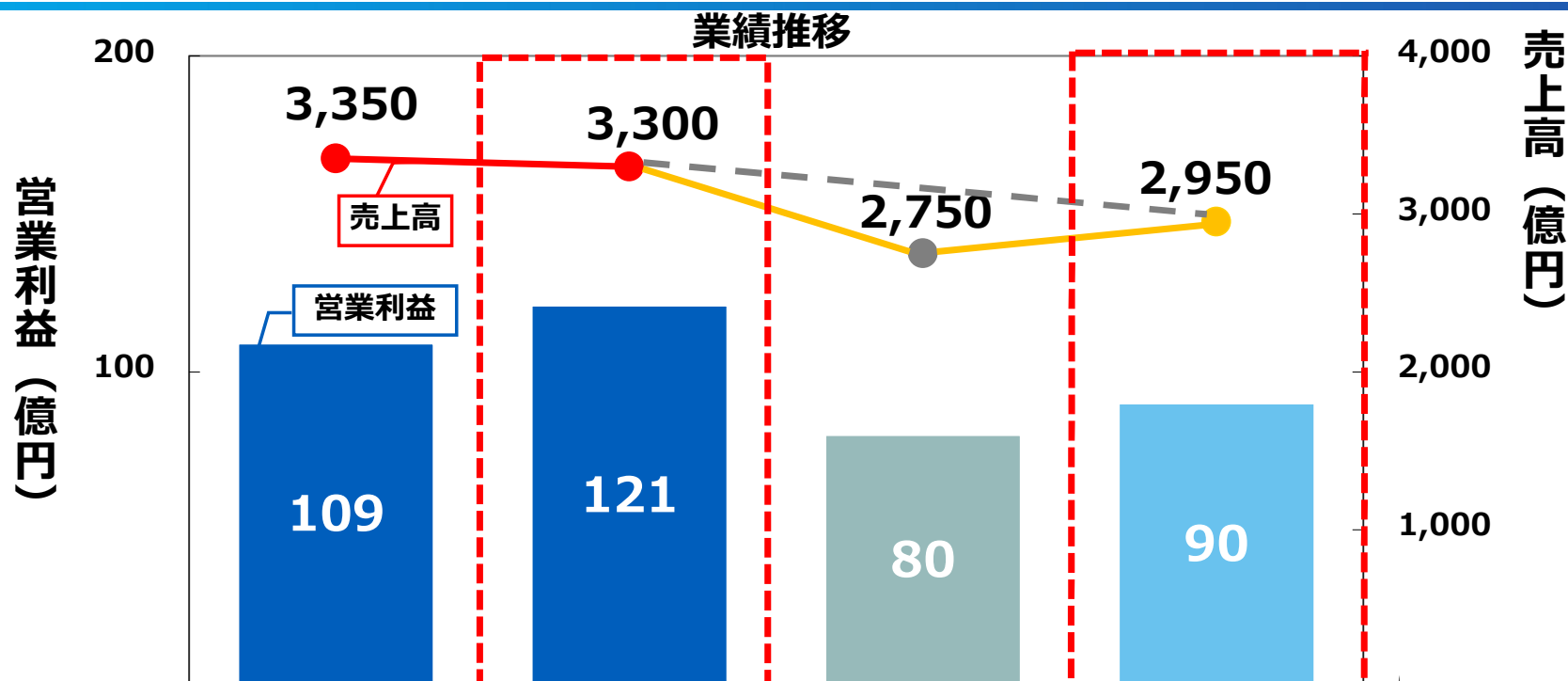
● 前年度末に対し1.8%増の46.6%



2025年度見通しについて

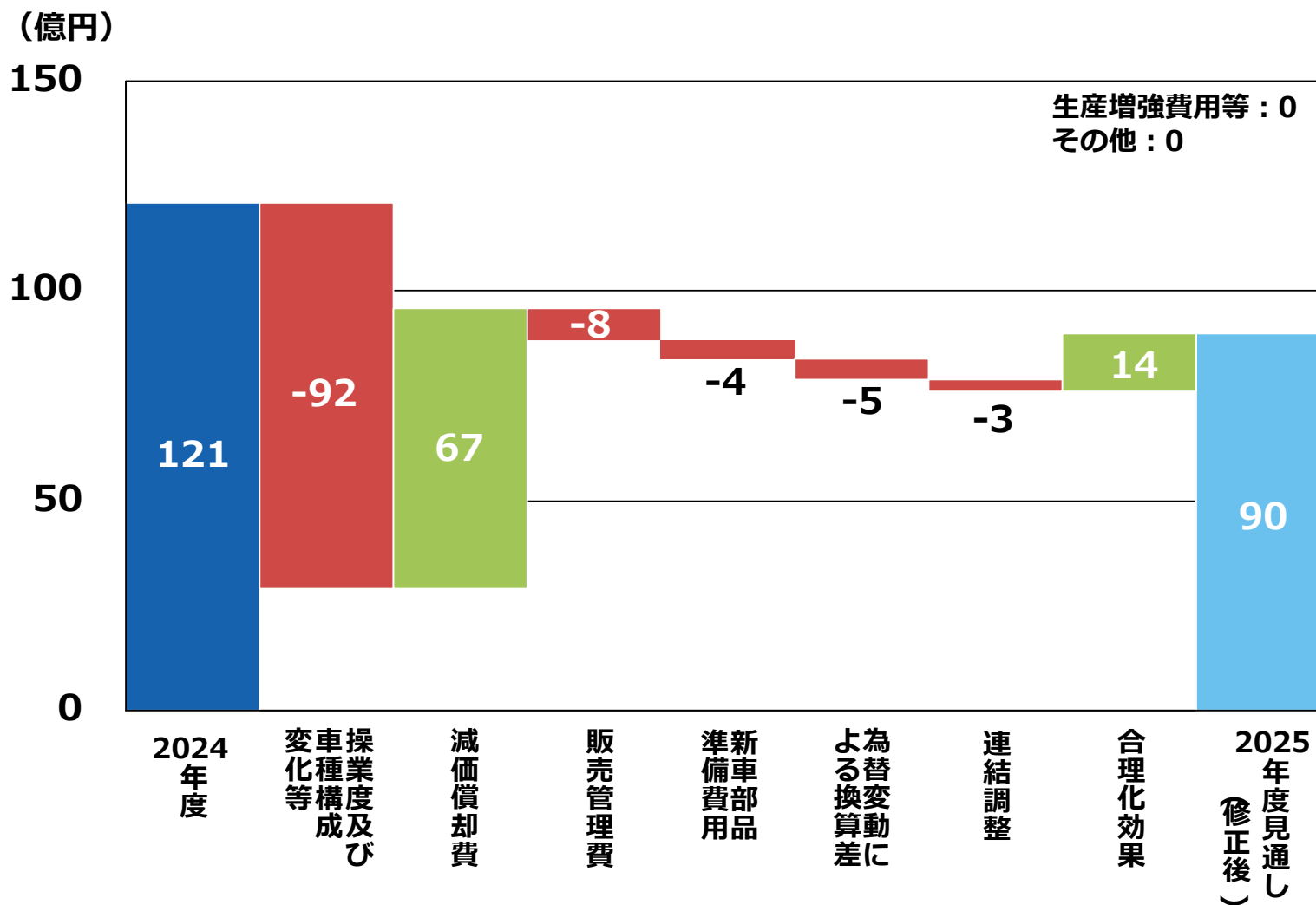
1. 売上高、営業利益は、米州地域における得意先の販売が好調等により、当社グループの生産計画が当初より上回ることを見込み、見通しを上方修正
2. 現在、中国拠点の事業再構築が進んでおり、それに伴い更なる費用および損失が発生することが見込まれ、また、一部の欧州子会社で特別損失が発生する可能性があるため、親会社に帰属する当期純利益の見通しを下方修正

2025年度連結業績見通しサマリー（前年度対比）



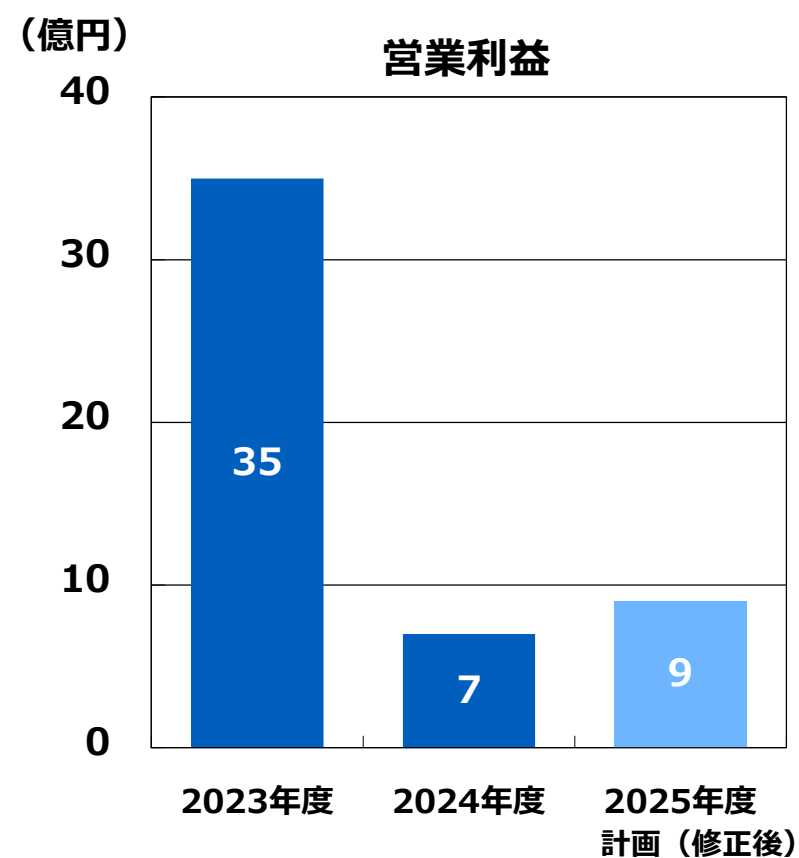
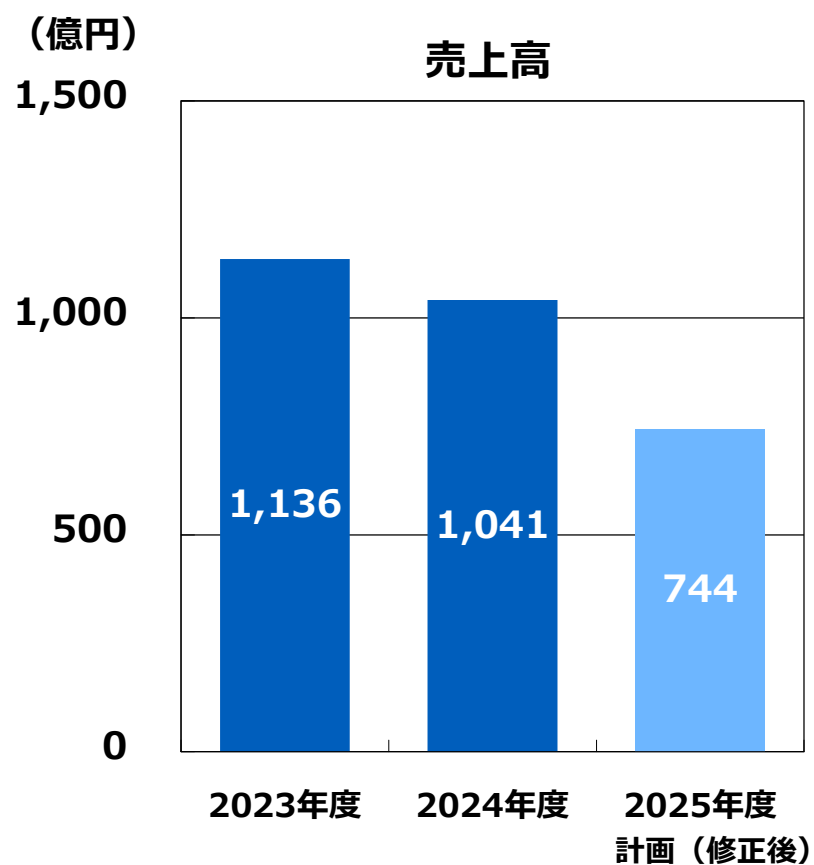
	2023年度	2024年度 (A)	2025年度 (5/13当初開示値)	2025年度 (11/6修正開示値)(B)	前年度対比 (B) - (A)
売上高	3,350	3,300	2,750	2,950	-350
営業利益	109	121	80	90	-31
経常利益	125	136	80	90	-46
親会社株主に帰属する当期純利益	52	-210	25	-45	+165

営業利益の増減見通し（前年度対比）



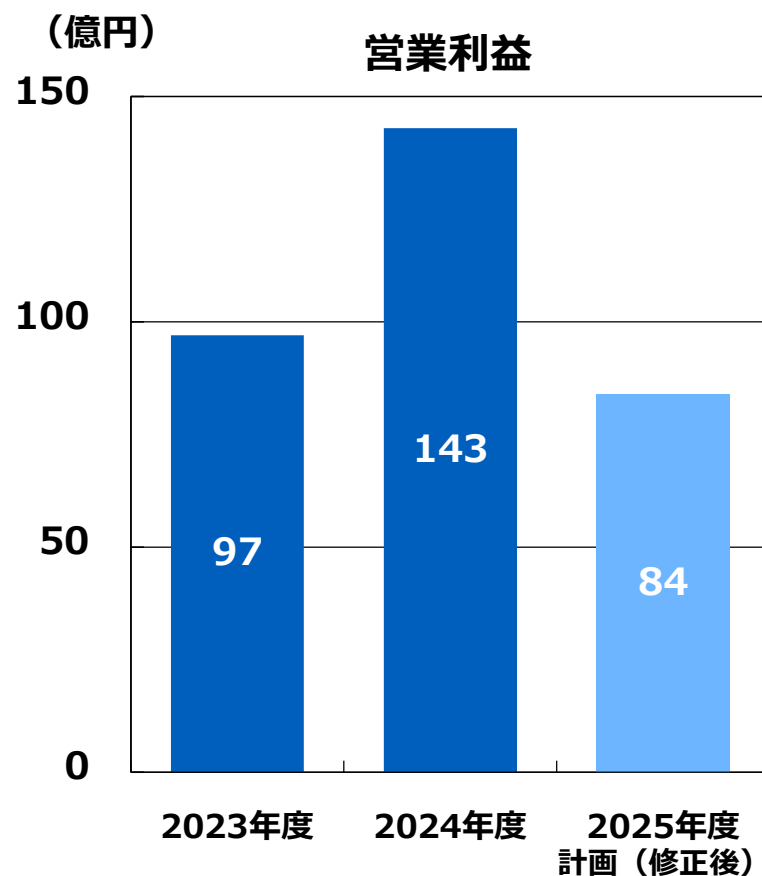
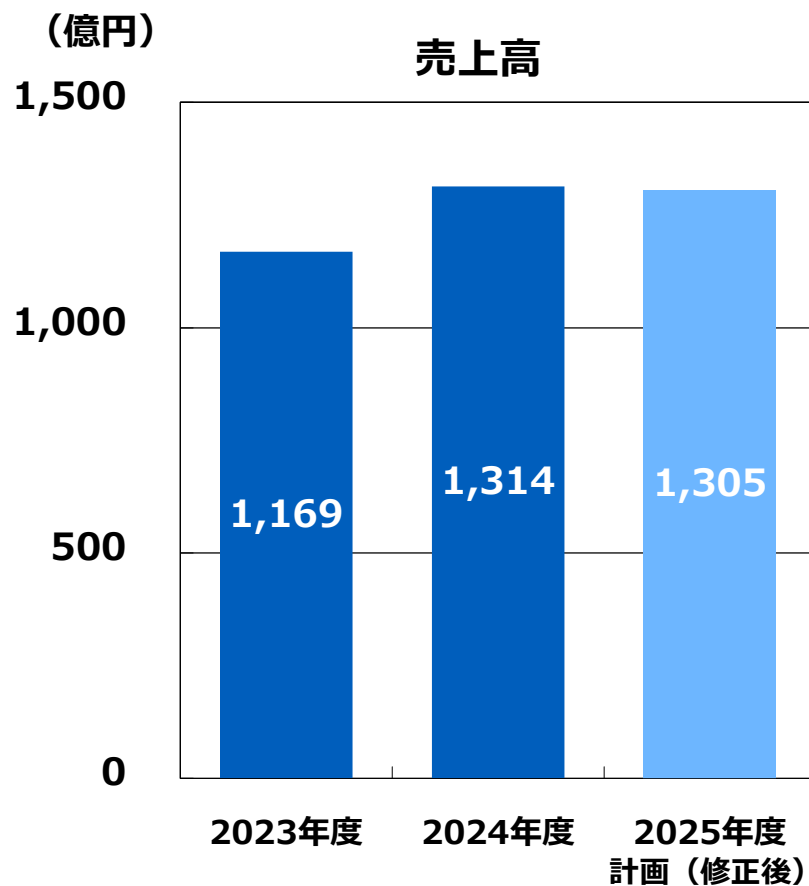
地域別売上高・営業利益（日本）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、減収を計画
- 営業利益は、売上減少の影響はあるものの、移転価格税制調整金の影響等により、増益を計画



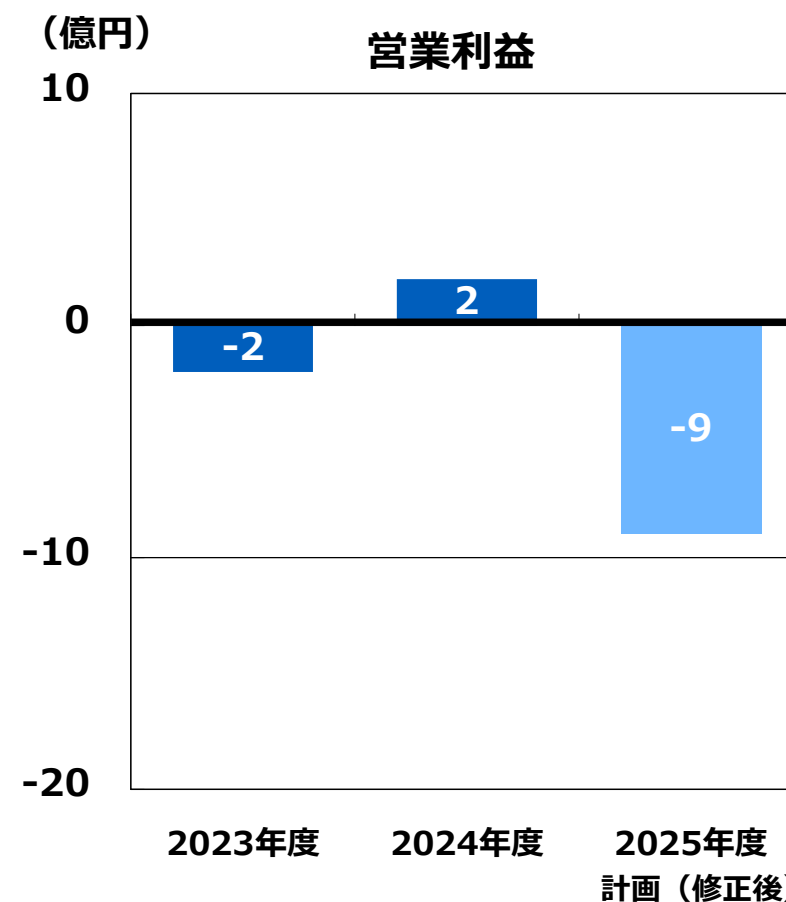
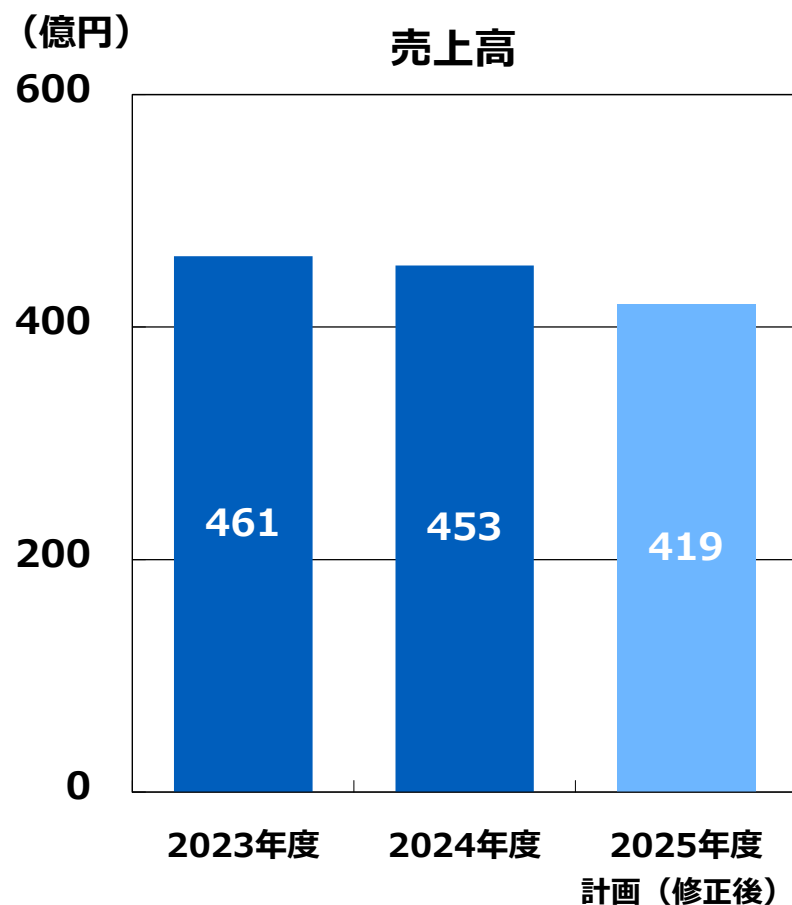
地域別売上高・営業利益（米州）

- 売上高は、概ね前年度並みを計画
- 営業利益は、移転価格税制調整金の影響等により、減益を計画



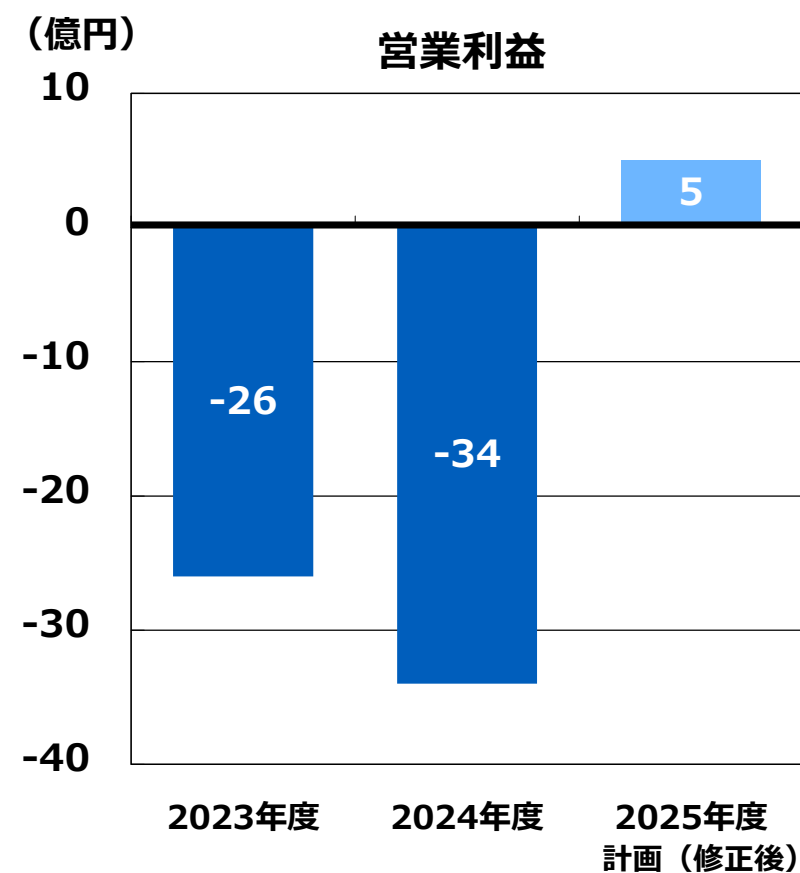
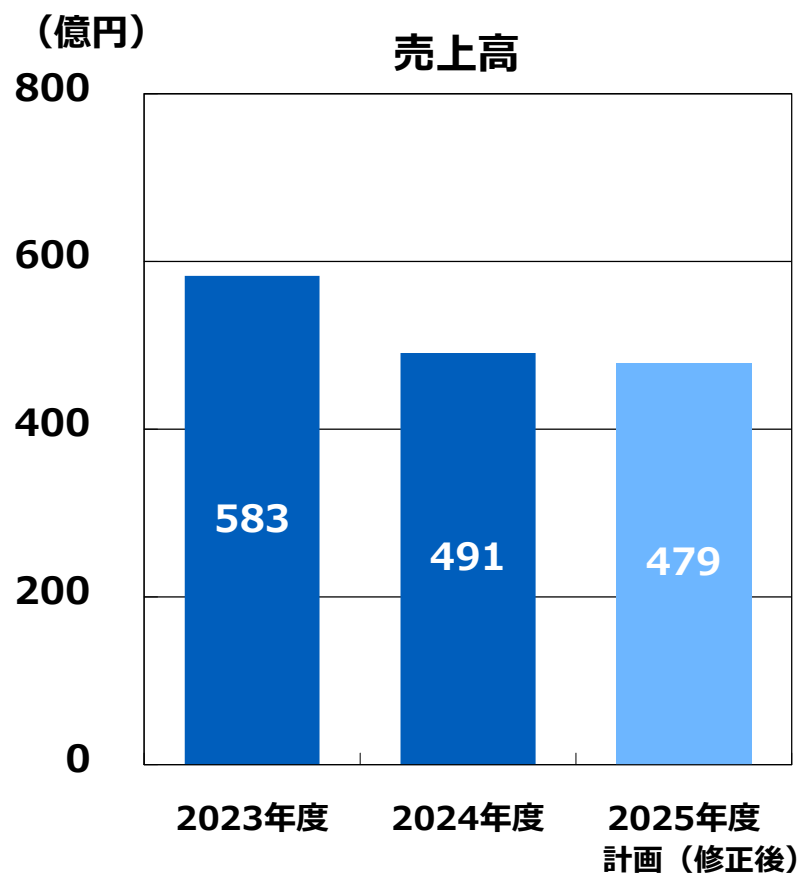
地域別売上高・営業利益（欧州）

- 売上高は、得意先の減産影響等により、減収を計画
- 営業利益は、売上減の影響等により、減益を計画



地域別売上高・営業利益（アジア）

- 売上高は、概ね前年度並みを計画
- 営業利益は、減価償却費の改善等により、黒字に転換を計画



2025-2027年度 中期経営方針の進捗

(再掲) 環境認識と対処すべき課題

環境認識

自動車メーカー動向の変化

- 中国OEM等新規参入の増加
- 価格競争の激化

電動車動向の不透明化

- 米国EV政策の転換
- EU等のCO2排出規制緩和
- BEV、HEV、PHEVの競合

経済動向の不安定化

- 米国関税リスク等の増大
- 政治対立による経済政策不調

2025年度

2026年度以降

構造改革

最適な生産体制の構築

スマート化

コスト競争力の向上

成長戦略

戦略的技術開発の充実・加速

事業・財務面だけでなく、各ステークホルダーに対する取り組みを強化

PBR向上

ROEの向上

事業戦略

- 最適な生産体制の構築
- スマート化によるコスト競争力の向上
- 戦略的技術開発の充実・加速

財務戦略

- 生産数量の変化に強い収益体質
- 事業構造に最適な自己資本

PERの改善

株主還元の充実

- DOEを指標とした配当政策
- 機動的な自己株式の取得

成長性への期待

- サステナビリティ経営の推進
- 投資家との対話強化

【構造改革】最適な生産体制の構築

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

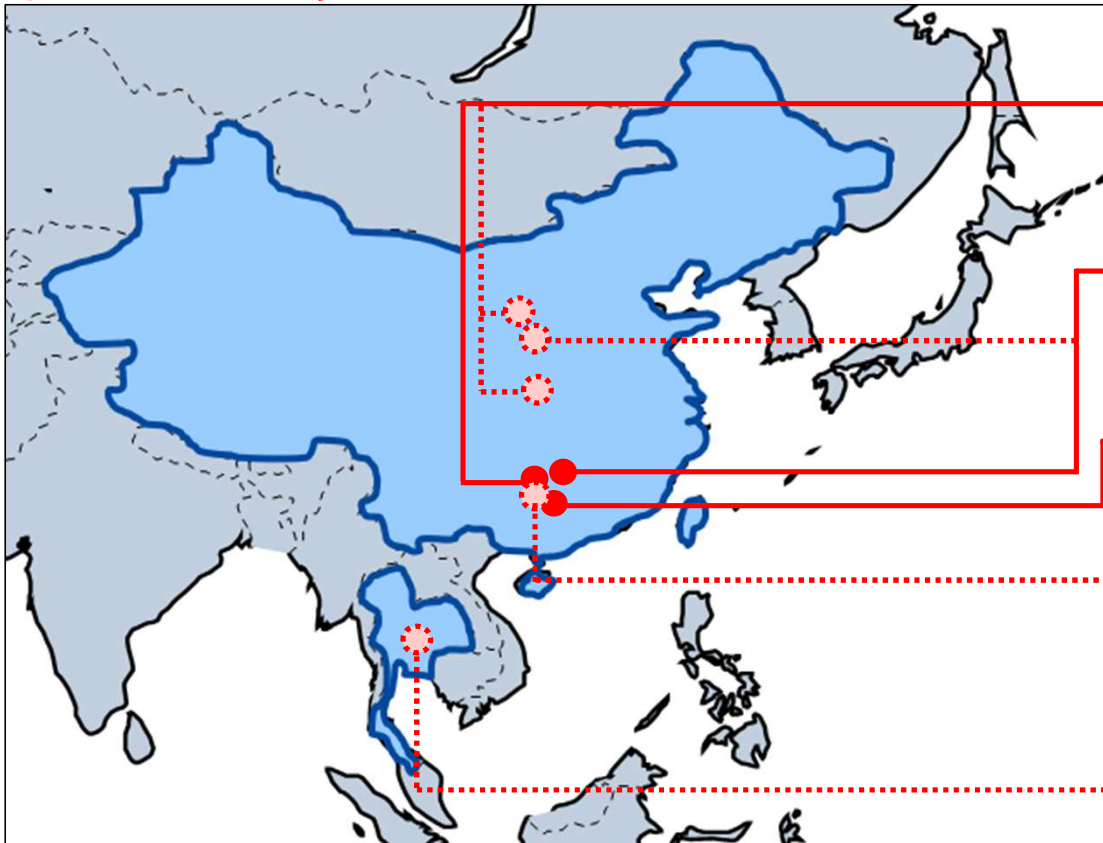
成長性への期待



30

生産体制を抜本的に見直し

●：継続する拠点 ⊗：削減もしくは削減予定の拠点



<中国拠点：再編>

生産3拠点（広州、鄭州、武漢）を
広州中心に集約中

- ・ホットスタンプ合併事業を解消し、
100%子会社化（10月）
- ・生産ライン削減（12月予定）

金型事業分社化（6月）

小物部品生産子会社売却（7月）

<その他地域：門構えの最適化>

タイ販売拠点撤退（26年3月予定）

(再掲)

【成長戦略】 戦略的技術開発の充実・加速

事業戦略

株主還元の充実

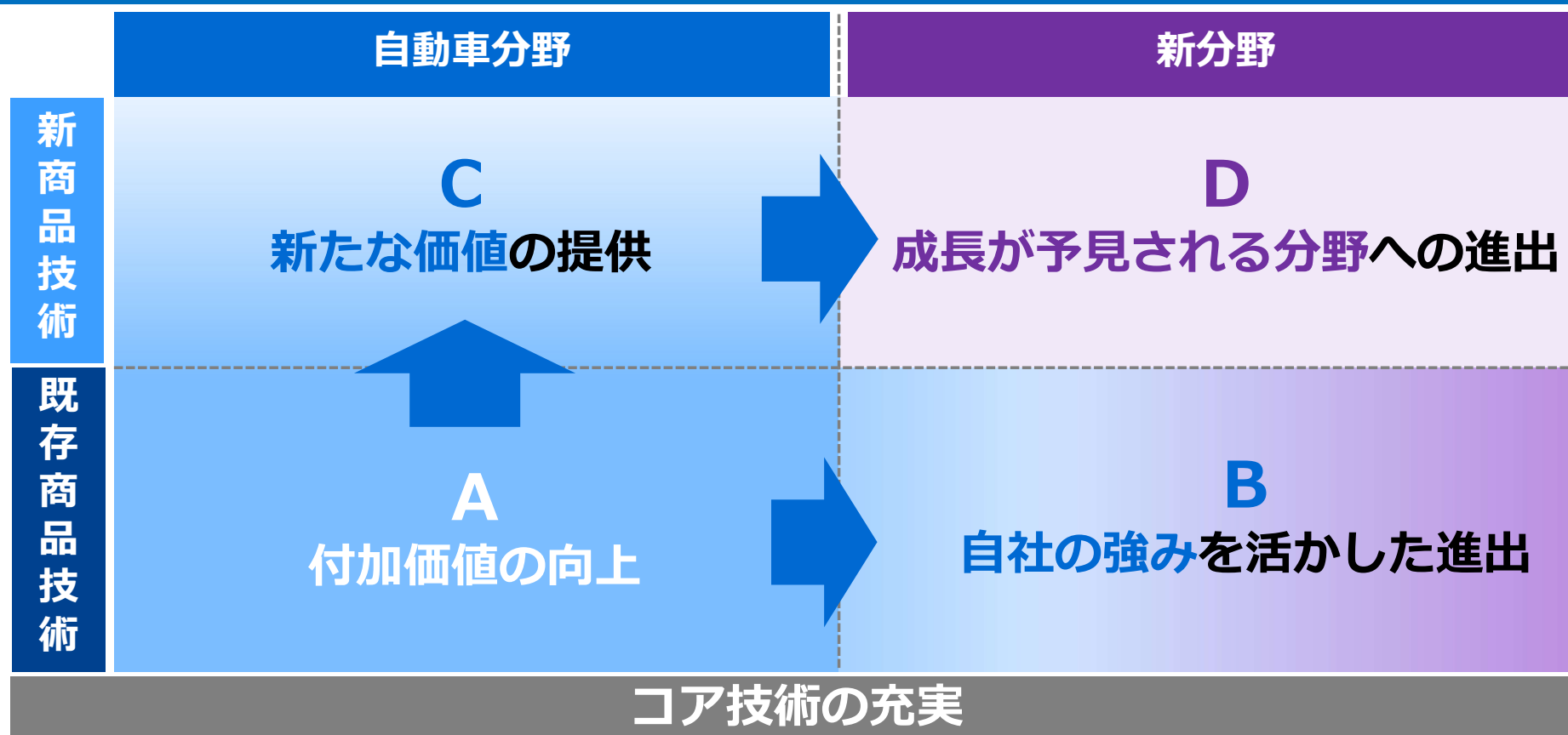
財務戦略

成長性への期待



31

基盤となるコア技術の一層の充実により、既存商品の付加価値を高めるとともに、将来の新品・新分野を見据えた戦略的技術開発を推進



【成長戦略】車体・樹脂プレス部品開発の進捗

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



32

自動車分野	【A】 既存商品技術	車体 ■ 軽量バッテリーケース開発 ケースのコーナー部の小R化を実現するプレス工法を開発 (バッテリーセルの積載効率改善) ■ スチール部品の更なる高強度化 ホットスタンプ2.0GPa材適用部品の量産を開始
	【C】 新商品技術	車体 ■ 車体骨格部品統合 ・フロントフロアの一体化部品を受注 ・リアフレームは複数のOEMから引き合いを受領 樹脂 ■ 多機能化 ・大型フロアカバー用高剛性シートの試作完了 ・吸音・耐着氷性機能を両立した新商品を検討中
新分野	【B】 既存商品技術	車体 ■ シートフレーム部品 シートメーカーより引き合いを受領
	【D】 新商品技術	車体/ 樹脂 ■ 産機・農機・建機 他 顧客ニーズ調査を開始し、コア技術とのマッチングから 新商品創出の検討を開始

【成長戦略】 スチール部品の更なる高強度化

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



33

スチール部品の更なる高強度化の適用技術の推進によって、
ホットスタンプ2.0GPa材の適用部品を受注し、量産開始

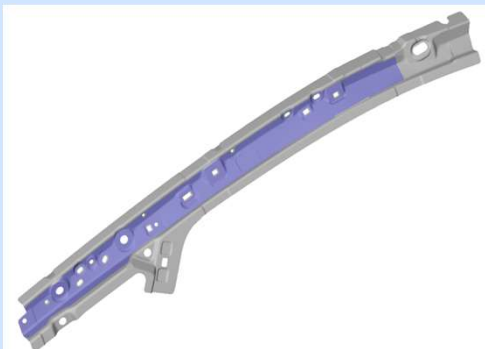
【東風日産 N7】



◆ 受注部品

フロントピラー
インナーアッパー

ホットスタンプ2.0GPa材+
パッチワーク



※パッチワーク：
重ねた2枚のブランク材
を同時に成形する技術

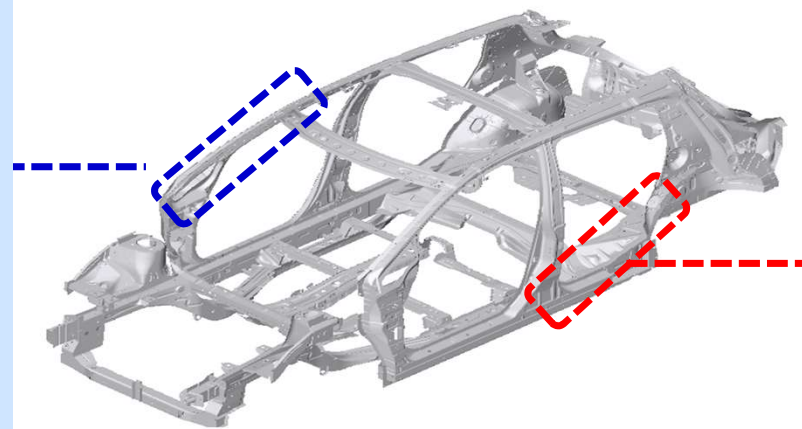
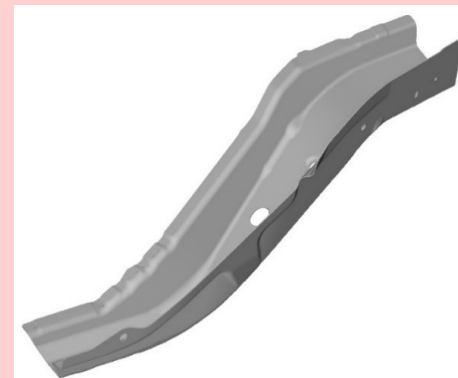
【NIO Firefly】



◆ 受注部品

リアサイドメンバー

ホットスタンプ2.0GPa材



【成長戦略】精密プレス部品開発の進捗

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



34

自動車分野	【A】 既存商品技術	■ HEV/PHEV トランスミッション部品 新たにHEV、PHEV部品の引き合いが増加中 ・鍛造・鋳造・焼結仕様のプレス置換仕様を提案 ・プレス成形による構成部品の仕上げ加工レス化検討
	【C】 新商品技術	■ e-Axle構成部品 中空ローターシャフト、バスバーの引き合いを受領 ■ 駆動系構成部品 動力伝達用のシャフト部品の引き合いを受領 ■ シート機構部品 アジャスター部品の引き合いを受領
新分野	【B】 既存商品技術	■ 産業機械用部品 ロボット構成部品の鍛造・鋳造のプレス化・仕上げ加工削減を客先提案中
	【D】 新商品技術	■ 産業機械用部品 ロボット向け減速機ギヤの開発に着手（仕上げ加工レス）

2025年度上期 受注状況

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



35

既存顧客向けの受注部品拡大に加え、
既存顧客の未取引拠点での新たな受注拡大により、拡販を図る

2025年度上期 量産開始車種

日産



新型「リーフ」
(日本)



新型「ルークス」
(日本)

三菱



新型「eKスペース」
(日本)

スズキ



「フロンクス」
(インドネシア)

ルノー



「アルピーヌ A390」
(フランス)

2025年度上期 トピックス

■ 東風日産「N6」 受注獲得



■ マツダ向けの車体部品 を日本で初めて 受注獲得

株主還元の充実

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待

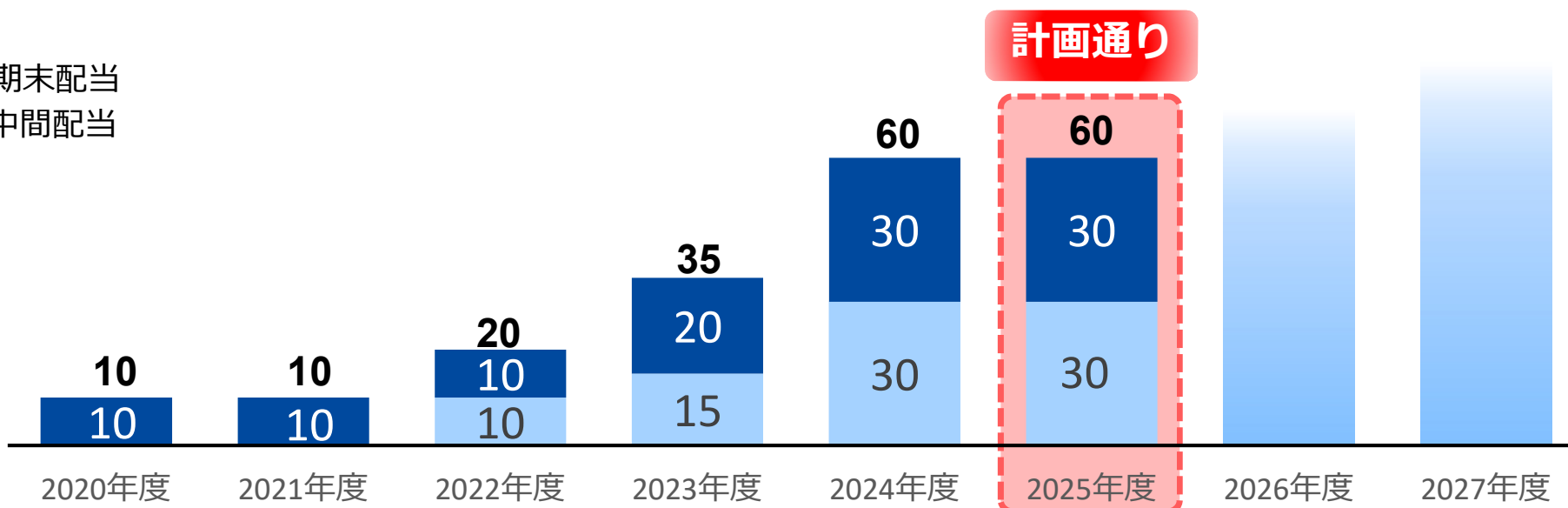


36

- 配当は引き続きDOEを指標とし、当面2%超、中期的に3%を目指す
- 適切な自己資本の水準を維持しつつ自己株式取得を機動的に実施

(円/株)

■ 期末配当
■ 中間配当



計画通り

DOE

0.4%

0.4%

0.7%

1.1%

1.9%

当面は2%超を意識

自己株式
取得

自己株式消却

機動的な
自己株式取得

(再掲) サステナビリティ経営の推進

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



37

経済的な価値の創出に加え、社会的な価値の創出を目指し、
「Well-being」「ESGの取り組み」「カーボンニュートラル」に取り組んでいる

Well-being

・ 人的資本を強化

- ✓ キャリア充実の施策実施
- ✓ 女性管理職比率の更なる向上
- ✓ 心理的安全性向上
(全管理職向け研修の実施等)
- ✓ ヘルスリテラシー向上

ESGの 取り組み

・ 資源の有効活用

- ✓ リサイクル材の活用拡大
- ✓ 産業廃棄物リサイクル率向上
- ・ **社会貢献活動の推進**
 - ✓ 環境保全、次世代育成、
地域活動を中心に活動を推進
- ・ **コンプライアンスの強化**

カーボン ニュートラル

・ カーボンニュートラルの推進

- (2050年度 事業活動で排出する
GHG 排出量実質ゼロ)
- ✓ 環境貢献製品の開発推進
- ✓ 再生可能エネルギーの活用
- ✓ 省エネルギー活動の推進

「森林再生パートナー制度」参画により、神奈川県より感謝状を受贈

写真提供：神奈川県

- 当社は森林再生パートナーとしてネーミングライツを取得し、神奈川県愛甲郡の宮ヶ瀬湖近隣の森林10.38ヘクタールを「ユニプレスの森」と命名した
- 今後はパートナー企業活動として、森林整備や自然観察等の社内イベントを実施し、従業員の自然保護意識を啓発し、環境保全に貢献していく



右：神奈川県 黒岩 祐治知事
左：当社の代表取締役・社長執行役員 浦西 信哉

< 森林再生パートナー制度 とは >

森林の豊かな恵みを次世代に引き継ぐ「かながわ森林再生50年構想」に賛同する企業・団体が、神奈川県と共に森林再生に取り組む制度

優良な子育てサポート企業として「プラチナくるみん」を取得

- 「プラチナくるみん認定」とは、「くるみん認定」を受けた企業のうち、仕事と育児の両立支援の制度導入や利用が進み、特に高い水準の取り組みを行っている「優良な子育てサポート企業」に与えられる特例認定

<取り組み>

■ 男性の育児休業取得促進

育児休業に関する制度・情報の社内周知と職場理解の促進、
対象従業員ならびに所属上司への育児休業取得に向けたはたらきかけ

■ 仕事と家庭を両立しやすい環境づくり

ワークライフバランス向上のため、育児等に利用できる新たな特別休暇
制度の創設、育児のためのテレワーク就業条件緩和など、柔軟な働き方
ができる制度整備



当社の気候変動への取り組みが評価され、2019年版に続き、
「Mizuho Eco Finance2025年版」を締結

<Mizuho Eco Finance とは>

- 脱炭素社会への移行に向けた企業の取り組みを支援することを目的に、みずほ銀行が提供する環境評価融資商品です。
- 企業の取り組みや指数をスコアリングし、一定のスコア以上を獲得した企業に対し融資契約を行います。



静岡銀行の社会貢献寄付型融資を通じて、
地域社会貢献の一環として子供たちの育成支援活動に参画

- 当社は、未来世代と地域社会の支援を目的に、静岡銀行の社会貢献寄付型融資「しずおか未来世代サポートローン」を締結しました。
- 本融資を通じて、支払う金利の一部を、静岡県内の子供食堂の運営などに関わる団体や基金に寄付します。



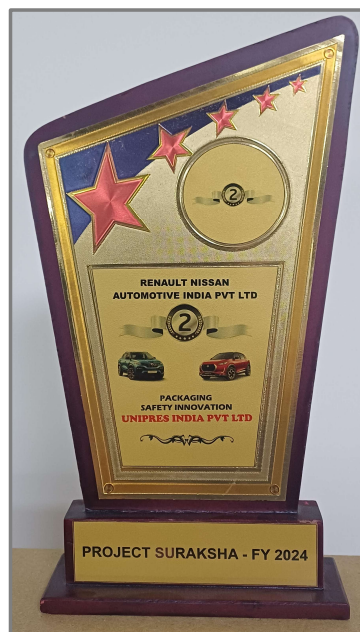
静岡銀行

車体プレス部品に関する賞を受賞

<日産自動車九州> 品質貢献賞



<ルノー日産インドア> Packaging Safety Award



<Isuzu Motors India > Cost Excellence Award



「サステナビリティレポート2025」発行

事業戦略

株主還元の充実

財務戦略

成長性への期待



42

当社のサステナビリティに関する取り組みをまとめた
「サステナビリティレポート2025」を発行

社外からの評価

ESGインデックスへの組み入れ状況

取り組み

温室効果ガス排出削減への取り組み

グローバルでの温室効果ガス排出削減量の推移 (Scope1,2)

Sustainability Report 2025

ユニプレス株式会社

UNIPRES

プレスのかで、未来にプラス。

サステナビリティレポートは当社ホームページからご覧いただけます。 <https://www.unipres.co.jp/csr/report>

当社への理解を深めていただくため、機関投資家・アナリスト向けに、ユニプレスグループ最大級の車体工場であるユニプレス九州の見学会を開催

<ユニプレス九州工場見学会>

- 開催日程： 2026年3月17日（火）予定
- 案内開始： 2025年12月1日（月）より
- 見学工場： ユニプレス九州（勝山工場・戸畑工場）
- 当社出席者：
 - ユニプレス 取締役副社長執行役員 山本 邦雄
 - 専務執行役員 森 敏明
 - （兼 ユニプレス九州 代表取締役社長）
 - 常務執行役員 渡辺 正樹
 - ユニプレス九州 代表取締役会長 尾越 英樹
 - 工場長 門田 正彦



ユニプレス九州 工場全景



3000トン
トランスファープレス



プレスのかで、未来にプラス。

「IR情報メール配信サービス」のご案内

ユニプレスの最新情報をメールでお知らせします。ぜひご登録下さい。

スマートフォンから
二次元コードを読み
取って登録



パソコンから

ユニプレスWEBサイトトップページのバナーをクリック



前提為替レート

参考

(円)

	2024年度 上期		2025年度 上期		2025年度 見通し前提	
	期中平均	期末	期中平均	期末	当初	通期
米ドル	152.50	142.82	146.09	148.89	135.00	147.49
英ポンド	194.91	203.54	192.99	198.58	180.00	196.15
ユーロ	166.13	172.44	162.21	169.64	150.00	167.79
ペソ	8.95	8.72	7.42	7.69	6.75	7.73
人民元	21.26	22.05	20.35	20.20	18.50	20.58
ルピー	1.83	1.71	1.69	1.68	1.60	1.69
バーツ	4.23	4.36	4.42	4.43	4.00	4.51
ルピア	0.0096	0.0098	0.0090	0.0089	0.0082	0.0090

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。

それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 主要市場（日本、米州、欧州、アジア等）の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- ・ 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- ・ 為替相場的大幅な変動
- ・ 金融・資本市場における金利等の変動 など